2015年（平成27年）

第87号

（3月1日）

平安月報

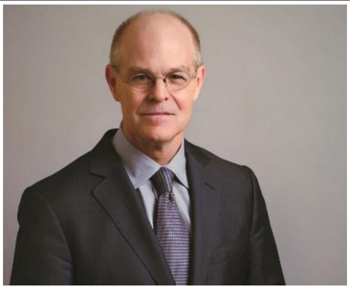
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区東山区東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

暴力を克服するのは「慈悲と愛」　～ＷＣＲＰ国際事務総長のメッセージ～

　ISIL（イスラム国）が湯川さん、後藤さんの二人を拘束し、殺害して１か月以上になります。この悲劇は日本と世界の人々に深い悲しみをもたらしました。

　先日、ＷＣＲＰ日本委員会に宛て、この事件に対するＷＣＲＰ（世界宗教者平和会議）国際事務総長のウィリアム・ベンドレイ博士の声明文が届きましたので、本紙にて紹介します。二度と今回の悲劇が繰り返されないように願い、祈りを込めて共に平和への歩みを進めていきたいと思います。



◆◆

【ＷＣＲＰ日本委員会関係者各位】

　我々ＷＣＲＰに属する日本の友人にとって、後藤さんの生命が奪われたことは痛恨の極みであります。我々は、このような卑劣な犯罪行為を痛烈に非難するとともに、後藤さんを弔い、ご家族と後藤さんにつながるすべての皆様に、心からのお悔やみを申し上げます。

　世界の多くの方々が、後藤さんの素晴らしいお人柄を認められていました。後藤さんは、自らの命をかけて、湯川さんを助けるために非常に危険な地帯に足を踏み入れられました。

　我々は、愛と慈悲が何よりも強いものであると信じています。このことは、たとえ悲劇や残酷な犯罪行為の渦中であっても、真実であります。

　我々は、後藤さんと湯川さんの生命を奪った非道な犯罪を非難するとともに、**ご家族とすべての日本の皆さんにお悔やみを申し上げます。後藤さんと湯川さんが、無限の慈愛の光に包まれて、安らかに眠られることを念じております。**

　ＷＣＲＰは昨年１２月、アラブ首長国連邦アブダビで開催された国際執行委員会において、「暴力的宗教過激主義」の悲痛な現実について深く検討しました。**我々は、究極的には、慈悲と愛のみが暴力を克服する唯一の道であるという信念で一致しています。**

　我々は、後藤さんと湯川さんの命を奪った残酷な犯罪行為を非難し、彼らを弔うとともに、**暴力的宗教過激主義の誤った道を歩んでしまっている人々に対しても、祈りを捧げます。彼らの心が癒され、彼らとすべての人々を包む慈悲に気づいてくれることを祈ります。**

　ＷＣＲＰに属する皆様の兄弟姉妹は、深い悲しみの中にいます。大きな悲しみとともに。

WCRP 国際事務総長
ウィリアム・ベンドレイ

一食平和基金より「イラク・クルド人避難者」に支援

　ISIL(イスラム国)により、住む場所を追われ、山中に逃げ込むことになった「イラク・クルド人自治区」の避難者は、食料はもちろん、衛生的な水さえも確保できない生活が続き、水質の悪い水のため病気の発生が報告されています。

　そこで、一食平和基金では、特定非営利活動法人ＪＥＮを通じ、病気の予防と衛生の改善をめざし、衛生的な水を提供するとともに、日常必要とする生活用品を提供するため、３００万円の支援を行うことにしました。

時事刻々

昭和５３年６月、国連史上初の軍縮特別総会が開かれ、庭野日敬開祖はＷＣＲＰを代表して演説をしました。その中で「危険をおかしてまで武装するよりも、むしろ平和のために危険をおかすべきである」と非武装による平和を訴えました▼こうした呼びかけがあっても、軍事費は増え続け、紛争や武力衝突が絶えません。日本においても軍事力を強化すべきという意見も高まっています▼平成２２年には、世界の貧困と飢餓の撲滅のために、世界の軍事費を一割削減しようとする『アームズダウン署名キャンペーン』を行ったことは記憶に新しいことでしょう▼そもそも争い事は、「自分さえよければいい」「力で自分の思いの通りにしよう」とすることから生まれます。それは人と人、国と国でも同じことです▼だから、身近なところから、困っている人を助け、共に仲良く暮らすように心がけることが大切です。そして、世界に向けても同じように取り組んで、平和な世の中にしていきたいものです。

今月のことば　～季節の行事に親しむ～

中央支部長　戸田　陽子

今月の担当は、中央支部の戸田です。よろしくお願いします。

３月号の「佼成」の会長先生のご法話は、**『季節の行事に親しむ』**というタイトルです。

前半は「生活に弾みをつける」です。

「春、３月の行事といえば、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。ひなまつりに卒業式……」と、ここまで読んで、私は会長先生のご法話に親しみを感じさせていただきました。

というのも、我が家には４人の娘がいますが、そのうち２人がこの春中学校と高校をそれぞれ卒業するからです。さらに、**３月５日が本会の創立記念日**にあたり、３月は大切な行事がいっぱいだと思いました。

しかし、「春分の日には『自然をたたえ、生物を慈しむ日』という意義があるのですが、そのことをかみしめることなく、いつもの休日と変わりなくすごしているのではないか。それでは少しもったいない気がします」と述べておられます。

それは「私たちの生活や人生は、少し目を向ければさまざまな変化が見てとれますが、多くの人の実感は、新鮮さに欠けたきのう・きょうであって、生活もマンネリ化しがちです。そうしたなかで、**マンネリから抜けだすきっかけとなり、弾みとなるのが、季節の行事や国民の祝日**です」と教えて下さっています。

ある会員さんのお宅では、必ず玄関先に季節にぴったり合った飾りつけやふさわしいインテリアを置いて、来客の目を楽しませてくださっています。そのようなご縁にふれて、私自身に「そろそろおひなさまを出さないと」とか「自然に感謝させていただこう」という気持ちを起こさせ、心に弾みがついて、前に進もうという気にならせていただきます。

後段の**「『いのち』の声を聞く」**では、四季折々の自然の営みを目にして無常を感じ、あるがままの生き方を詠んだ仏教者の短歌や俳句が紹介されています。

良寛禅師の「うらを見せ　おもてを見せて　散るもみじ」（もみじの葉には表があり、裏がある。裏のない葉も表のない葉もない。表裏一体だからこそもみじの葉である）の句には、死期を迎える自分自身を、ひらひらと散っていくもみじに例えて『人間はいいところも悪いところもすべて見せて、安心して元のところに帰っていく』という意味があると伺っています。

また、道元禅師の「春は花　夏ほととぎす　秋は月　冬雪さえて冷（すず）しかりけり」の歌について、会長先生は著書『急がず、休まず』の中で、このように述べておられます。

「この歌には人間～凡夫～の見る目ではなく、仏の見た絶対の世界が示されています。夏は夏で素晴らしいという讃歌の世界です。秋も冬も、他の季節に代えがたい独特の味わいがあり、そこには比較を超えたよさがある。私たち人間は、過ごしやすい春や秋を好み、夏は暑いし、冬は寒さが厳しいといっては嫌いますが、**暑さ寒さにもまた、味わうべき価値がある**というのです。～略～道元禅師が示されたのは、他と比較し、優劣を競うという、いわば相対的な見方を超えた絶対界の風光です。生きとし生けるもの、この世に存在するものすべてが、それぞれに何ものにも代えがたい絶対の尊い価値があるというのです」

こうして、季節の行事をとおして、そこに息づく「いのち」を味わい、慈しみ、神仏の声を聴かせてもらうことの大切さを教えていただきました。

結びに、中国の五行説では、春の異称を「青春」とい、３月は「青春」の出発点になるわけで、「今が青春」「今がいちばん若いとき」という気概をもとうと会長先生から呼びかけていただいています。

さらに、本会の創立の精神である「一人でも多くの人に幸せになっていただく」ことを心より願わせていただき、精進させていただきます。

合掌

宿直当番長研修＆壮年部新春のつどい　～和やかに支部交流～

２月８日、午前中に宿直当番長を対象とした研修会があり、午後から壮年部の新春のつどいが開催され約70名の宿直者が参加しました。

乾杯の後は、用意された食事を頂きながら支部を超えて日頃の修行精進の情報交換が盛んに行われました。

その後、各支部の宿直メンバーの紹介が行われ、終始和やかなありがたい場となりました。

貪・瞋・痴の三毒を滅し、幸福を招く　～節分会～

２月１日、午後から教会法座席で節分会が行われ、多くの会員さんが参拝しました。

今年の年男・福娘・厄年 85 名を代表して３名の方が誓願発表されました。

佐藤教会長さんはお言葉の中で「節分を迎えて本当の意味の今年が始まります。今年の年まわりは１日で例えると太陽が昇り始める時期にあたり、日の出を意味しすべてが照らし出されます。すべてがあきらかになるということです。」と述べました。

また「節分会では青鬼(欲の鬼)、赤鬼(怒りの鬼)、緑鬼(文句を言う鬼)を心の中から大掃除する日であり、そのためにはいつでも、どこでも、誰に対してもニッコリと笑うこと」と開祖さまのお言葉を紹介されました。

式典後は撒かれた豆の中の当たりくじから景品交換するコーナーに賑わいました。

政治を良くするも悪くするも、私たち次第

４月には統一地方選挙が行われ、向こう４年間の地方議会の方向が決まります。

昨年 12 月に行われた衆議院選挙の投票率は 59.3%という低い記録を残しました。前回（平成 21 年）の選挙では 69.3%だったので、約 1,000 万人が投票しなかったことになります。

その結果、自民党と民主党が今回と前回の比例代表の得票数と獲得した議席数を比較した表が下記の通りです。

	自民党		民主党	
	得票数	議席数	得票数	議席数
今回	1,662 (27.6%)	294 (61.3%)	983 (16.0%)	57 (11.9%)
前回	1,881 (26.7%)	118 (24.6%)	2,984 (42.4%)	230 (47.9%)

※得票数は万票、得票率は全有権者に対する得票数の割合

これは選挙制度によるところもありますが、有権者の半数程度しか投票していないことも要因になっているでしょう。投票しなかった人たちが、自分の思うような政治が行われていないと言っても、仕方がないのではないでしょうか。

一方、私たちは信仰者として、人々の幸福を願って、「利他」の行＝菩薩行に取り組むことを志しています。政治も本来、国民・市民の幸福のために、様々な政策・施策を検討・協議・決定・実行するものです。だから、庭野開祖も「宗教と政治は車の両輪」だと述べておられます。

私たちが政治と関わることができる最大の機会は選挙の時です。日頃から政治について関心を持つことは大切ですが、この時期は特に大事にしたいものです。

庭野開祖は次のように述べておられます。「選挙というものは神聖であり、大切なものです。選挙を通じて政治家の態度、信条をよくみつめ、立派な人を送り出し、正しい政治をしてもらうことが現代社会ではとりわけ必要です。無責任な態度をとっていて、なにか事があると、“政治が悪い”と騒ぐのは民主主義を正しく発展させることはできません。」（1965 年７月２日『佼成新聞』）

「政治はよく分からない」「政治家は信用できない」「私の一票で政治が変わることはない」「誰に投票していいか分からない」などと言って、政治から遠ざかる人がおられます。

私たちは、幸いすべてのいのちの大本となる「仏」を信じ、生き方の指針となる「教え」をいただき、共に同じ道を歩もうとする「サンガ」があります。

今回の統一地方選挙に対しても、正しく見て、正しく考え、正しく語り合い、正しく行動したいものです。多くの人の幸福を願って、一票を投じましょう。

インターフェース（諸宗教間交流）駅伝　～異なる宗教がタスキリレー～

２月15日、京都マラソンとインターフェース駅伝が同時開催されました。宗教都市、京都から世界平和を祈り、宗教者が手を結びタスキリレーを行います。京都教会渉外部スタッフからもリレー走者として参加すると共に、青年部はボランティアとしてお手伝いしました。

駅伝には、イスラム教のほか、仏教、神道、キリスト教など39人が参加。４人一組で10チームを組んで、最後までタスキをつなぎました。

【インターフェース駅伝とは】

●なぜ InterFaith 駅伝を日本で開催するのか？

宗教を根底にした紛争が絶えない世界に向けて、様々な宗教が多様に共存し、年間を通じて異なる宗教催事を受け入れる日本人心の寛容性を積極的に発信し、世界平和に貢献するべく開催します。また、東日本大震災による犠牲者や現在も困難な生活をされている方々に、国内外の宗教者で祈りを捧げ、鎮魂と震災復興を願います。

●なぜ InterFaith 駅伝を京都で開催するのか？

世界の方々から親しまれている「京都」は、寺院や教会等多くの宗教施設が立ち並び、多くの宗教者や参拝されている皆様が祈りを捧げ、世界平和を願っている「宗教都市」です。InterFaith の趣旨である「世界平和」を宗教都市である京都から世界へ向けて発信します。

また、京都は「駅伝発祥の地」とされ、1917（大正6）年に開催された日本初の駅伝である京都～上野間の「東海道駅伝徒歩競争」のスタート地点として、三条大橋には「駅伝の碑」が建てられています。

●「平和を願う祈りの駅伝」とは？

日本初開催の際に設定した、オリジナルのサブタイトルです。全ての人々が心から願う平和を、駅伝出走者や宗教者のみならず、この駅伝を知ってくださった全ての人々とともに「平和」を願いたい、という思いがこめられています。

一食を捧げる運動　～私たちの取り組み～

２月７日、８日の２日間、一食推進全国フォーラムがご本部の法輪閣大ホールで開催され、174 教会から約 330 名の参加がありました。京都教会からも青年・壮年の代表各１名が参加しました。

今年は開祖さまが一食を捧げる運動を提唱されて40 年目の節目になります。フォーラムでは、一食平和基金運営委員会の沼田雄司委員長による講話、一食運動の 40 年を振り返るビデオ、一食平和基金の支援先の報告、グループワークなどが行われました。

今回のフォーラムの参加者は「一食を捧げる運動の一番の特徴は『いつでも、どこでも、誰にでも、いつまでも』できる わかちあい運動であること。この『いつまでも』ということが非常に大事であり、継続することによって、慈悲の心、思いやりの心を、ずっと忘れることなく持ち続けることができるということ。「献金」も重要だが、むしろ「一食運動」を通して、仏さまの心に近づくことを学び、皆で協力して一食を捧げる運動を進めていきたいと力強く思った」と語っていました。

３～４月の主な教会行事

３月 １日（日）	9:00～	朔日参り・布薩の日
４日（水）	9:00～	開祖さまご命日
５日（木）	9:00～	教団創立 77 周年記念式典
10日（火）	9:00～	脇祖さまご命日
15日（日）	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日・布薩の日
後半		春季春分会（各支部）
４月 １日（水）	9:00～	朔日参り・布薩の日
４日（土）	9:00～	開祖さまご命日
５日（日）	9:00～	花まつり

●メッセージ

川崎市で中学１年生の少年が殺害される事件が発生しました。殺人容疑で逮捕された１８歳の少年は「暴力的な面があった」とする反面、「優しかったのに」と言う人もあり、二面性があると指摘されています。

私たちはもともと多面性があると言われています。仏教では縁起の教えが説かれています。私たちは触れる縁によって様々な自分が現れてくるのではないでしょうか。それだけにより善き縁を求めることが大切だと思えてなりません。